ダンス学習における即興表現とコミュニケーションの可能性

村田　芳子・岡本　悦子

Ⅰ．研究目的

「踊る行為」は，個々人の心と身体の全てを投じて実現される自由で自発的な行為である。学習は，身体表現の特性である「ノンバーバル・コミュニケーション」の魅力を探究する過程でもある。

ダンス学習におけるコミュニケーションは，単に「見せる――見る」の伝達だけでなく，場を共有する仲間と感じ合い，関わり合って踊る中で新しい自分や他者の個性を発見する契機となり，多様な内容と活動を含んでいる。そして，踊る者同士のコミュニケーションは，即興表現の学習場面でより豊かに展開されると考える。しかし，多様で可変的であるが故の即興表現の指導の困難さや，他者とのコミュニケーションは「個」が確立した後でしか成立しないという考えもまだ根強い。

本研究では，即興表現におけるコミュニケーション（共に踊る者同士の動きによる関わり）の可能性に注目し，学習の初期の段階からコミュニケーションの要素を積極的に取り入れた授業を実施した。その分析を通して，即興表現におけるコミュニケーションの有効性と可能性を明らかにするとともに，学習プログラム開発の基礎としたい。

Ⅱ．研究方法

〔対象と期間〕

・平成７年度前期舞踊 A 及び小学体育Ⅱダンス
　舞踊 A 受講生45名(男14，女31，初心者36)
　小学体育Ⅱ受講生26名（男６，女20）

〔学習プログラムの概要〕

・毎回テーマを変えた即興表現（９回）と発表会に向けた作品創作と演出の工夫（３回）
・コミュニケーションの主な内容と活動

二人組で	○自由に関わって踊る(模倣･かけ合い等，固定の相手と，次々と変わる相手と，他の２人組と関わって･･等) ○いろいろな関わり，２人でしか出来ない動きで ・対決･戦い･追いつ追われつ･磁石等のイメージ設定で ・くっつく――離れる，手をつなぐ，反対，くぐり抜ける，リフト引っ張る，引きずる，押し合う･･等の動きで ○ミラーの世界(相手を真似る，発信と受信の交替) ○リードしあう(身体の部分の意識，不安定な動きの面白さ) ○手の会話，声(オノマトペ，ジバリッシュ)使った身体の会話 ○言葉の掛け合い(一人が言葉で振り付け，一人はダンサー) ○リズムにのって相手と対応して語る(簡単な振りを共有して)
グループ全体で	○リーダー(担当班)と一緒に踊る ○群のウォーミング･アップ(人数増やし，主役と脇役等) ○「バイ･チャンス(究極の群即興)」――たたく，触れる，見る等の人と関わる動きで感じ合って動く ○音楽を手掛かりに群の即興(主役の交替，受信と発信) ○円形コミュニケーション(身体の触れ合い，動きを共有して)

〔分析方法〕

１）VTR による授業分析――内容と時間，活動形態，教師の関わり，コミュニケーションの様相

２）学習者の内省記録から，即興表現とコミュニケーションに関するキーワードを抽出，分類

Ⅲ．結果と考察

１．VTRによる授業分析の結果

〔１回の授業の展開〕

テーマ「２人のいろいろな関係」の例より

	〔主な内容〕	〔活動形態〕
ストレッチ	引っ張ったり，ねじったり補助しあって	・２人組
ウォーミングアップ	・リーダー(担当班)を交替して(祭り風―2人組でかけ合い―声をだして―踊りながら集まる)	・リーダー対全員 ・途中２人組
テーマの学習「2人の関係」	①手による会話(座って，立って) ②２人で踊る「恐怖のデュエット」 ・いろいろな関係をみんなで ・自由に組み合わせて即興 ・２つに分かれて見せ合い ③アンコール発表（５組） ④言葉の掛け合い ・例を実際に示す ・一人が言葉の掛け，一人が踊る ・踊った方がもう一度自分で踊る	・２人組 ・２人組 ・ペアグループで見せ合い ・２人組（役割交替）
皆でダンシング・タイム	・２人で対応して踊る（簡単な振りを共有して） ・相手を変えクラス皆で踊る	・２人組 ・相手を変えて

２．受講生の内省から抽出したコミュニケーションに関するキーワード

〔舞踊Ａ（36名)〕

①多様な表現や動きの広がりと個性―226名(81%)
②友達や自分の新しい面の発見―214名(44%)
③受け身でない主体的な取り組み―214名(44%)
④新鮮，偶然性，意外性の面白さ―210名(31%)
⑤自由な雰囲気，気楽，動きやすさ―５名(16%)

〔小学体育Ⅱ（26名)〕

上記の①～⑤に加えて，「自由で楽しい，一体感や共感」（16名－262%）が多く，「感じ合って踊る大切さ」等，自分の中でのコミュニケーションの意味や可能性に関する記述が特徴的であった。

Ⅳ．まとめ

以上の結果から，即興表現にけるコミュニケーションの有効性は次のようにまとめられる。

①コミュニケーションは，即興表現の動き変化や発展の契機として有効である。
②コミュニケーションの内容と活動は多様であり発展的・段階的に押さえられる。
③コミュニケーションは，経験や力に応じてその潜在力と個性を出現させる可能性を含んでいる。更に，これらの学習指導の条件として，学習集団の性格，学習者が主体的に活躍できる場，拡散する内容をダンスの本質に近づける教師の関わり方（指導性）が挙げられる。